



《チャートの特徴》

- このチャート図は、「全国学力・学習状況調査」及び「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を表したものである。黒線は全国平均を表し、赤線は本校の平均を表している。
- 本校の結果を見ると、算数A《知識》は、全国平均を上回り、国語B《活用》、算数への関心が比較的高く、全国平均と同様の結果となっている。
- また、特に、国語への関心、言語活動が全国平均を下回っている。

《現状把握》

- 算数においては、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解と、円周率の意味や、直径の長さや円周の長さの関係について理解することに課題がある。
- 国語においては、相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと、文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。
- 理科においては、骨と骨のつなぎ目について、言葉や概念を理解すること、回路を流れる電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題がある。
- 規範意識、生活習慣について肯定的な回答が多いが、学習習慣、言語活動について肯定的な回答が全国平均より少なく、課題である。

《授業改善のポイント》

- ◎相手や場面に応じて適切に敬語を使う指導の充実
日常生活の具体的な場面と関連させ、いつ、どのようなときに、誰に対してどのような敬語を使うことが適切であるかを考えるなど、児童が自覚的に敬語を使用することができるような指導を行う。
- ◎文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く指導の充実
児童が自ら主語と述語が照応していないことに気付き、正しく書く必要性を実感できるように、他者に向けて話したり、目的や相手を明確にした実用的な文章を書いたりする学習での指導を行う。
- ◎単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解できる指導の充実
異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、一方の量をそろえると、もう一方の量で大小を比べることができることを実感的に理解できるようにする。また、二つの数量のどちらを単位量として設定しているのかによって数値の比較の仕方が異なることを理解し、目的に応じて適切に処理することができるようにする。
- ◎円周率の意味を理解できるようにする指導の充実
直径の長さや円周の長さを調べたり、円周の直径に対する割合を調べたりするなど、作業的・体験的な活動を通して、円周率の意味や、直径の長さや円周の長さの関係について理解できるようにする。
- ◎実験結果を基にしてより妥当な考えに改善できるようにする指導の充実
予想したことや予想が確かめられた場合に得られる結果の見通しを話し合うことができるように指導する。また、実験後に自分の予想と実験結果を比べるとときに他者の多様な予想も比べることができるように指導する。

《家庭・地域への働きかけ》

- 授業の予習や復習をする家庭学習が習慣化することの大切さを伝える。
- 学期ごとに1週間、家庭学習週間を設け、1日の起床・就寝時間、挨拶、宿題や食事について振り返る「生活リズムカード」の活用をして生活習慣や学習習慣の改善をお願いする。